

# 「観光ビジョン推進東北ブロック戦略会議」の設置

平成24年3月

「観光立国推進基本計画」策定

平成25年3月

「東北観光基本計画」策定  
(5カ年)

平成28年3月

「明日の日本を支える  
観光ビジョン」策定

平成29年4月

「観光ビジョン推進  
東北ブロック戦略会議」  
発足

「観光ビジョン推進東北ブロック戦略会議」を活用した  
観光施策の推進

平成29年3月

新たな  
「観光立国推進基本計画」策定

平成32年

○「訪日外国人旅行者数:4,000万人」、  
○「東北6県の外国人延べ宿泊者数:150万人泊」 などの目標達成を目指す

## 【観光ビジョン推進東北ブロック戦略会議】

- 関係省庁を含む多数の関係者が連携した「観光ビジョン推進東北ブロック戦略会議」を平成29年4月に設置
- 「明日の日本を支える観光ビジョン」掲載施策の取組を推進
- 東北ブロックにおける基本方針を策定

### 基本方針

- 東北全体としての効果的なプロモーションの方向性
- 復興・創生期間後を見据えた東北としての観光資源の姿やあり方
- オリンピック・パラリンピック開催等に向けた東北としての観光客の受入体制の整備

### 主な課題・検討事項

海外直行便の新設、既存路線の増設等／鉄道や高速バス、レンタカー等による東北の周遊促進／大型クルーズ船の寄港の増加と受入環境整備／広域観光周遊ルート形成に合わせた受入環境整備／無料公衆無線LANの環境整備／多言語対応の強化／広域幹線道路網等の整備／観光案内所、観光拠点情報・交流施設の機能強化／主要観光地等の受入環境／DMOを活用した観光による地方創生／農泊の推進／国立公園の利用促進／文化財の観光資源化 等

### 構成員

東北運輸局、東北地方整備局、東京航空局、国土地理院東北地方測量部、仙台管区气象台、東北総合通信局、東北財務局、東北農政局、東北経済産業局、東北地方環境事務所、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、仙台市、東北観光推進機構、日本観光振興協会東北支部、東北経済連合会、東北六県商工会議所連合会、日本旅館協会東北支部連合会、日本ホテル協会東北支部、日本旅行業協会東北支部、東北鉄道協会、東北索道協会、東北六県バス協会連合会、東北ハイタク連合会、全国レンタカー協会東北地区連合会、東北旅客船協会、東日本旅客鉄道(株)、仙台国際空港(株)、国際観光振興機構、日本貿易振興機構(JETRO仙台)



## 方針1：東北全体としての効果的なプロモーションの方向性

- プロモーションは広域連携組織や複数県連携による取組みが重要であり、桜や紅葉、雪といった季節毎の共通テーマを設定して東北のイメージを発信する。
- 2020年に向けて東北が一体となり、東京・北海道における外国人旅行者の訪問状況を見ながら、それぞれの国・地域の特色や東北でのインバウンドの状況を踏まえて強み・弱みをしっかりと見極め、国が策定するプロモーション方針も参考にしながら今後のプロモーション方針や事業の検討を行い、進めていく。
- 関係者が連携し、東北全体が共通してプロモーションに活用できる統一ロゴ・マーク（日本東北ロゴマーク）を積極的に使用し、東北の観光を世界に向けて発信する。

## 方針2：復興・創生期間後を見据えた東北としての観光資源の姿やあり方

- 地域が自ら観光資源の掘り起こし・磨き上げを進め、連携・相乗効果を発揮して観光に強い地域を創り上げる必要がある。観光地域づくりを通して地域の価値を伝え、東北と世界をつなぐ架け橋となる取組みを促進する。
- 国立公園の世界水準のナショナルパークとしてのブランド化をはじめ、古民家や食、文化財、祭、伝統芸能、インフラ、四季、温泉、生業など東北地域の多彩な文化と暮らしの体験や、東日本大震災からの復興を通じて学習できるプログラムを造成。これまでの観光資源に新しい価値を創造し、世界に通用する東北のブランドとして育て上げる。
- 観光資源の掘り起こし・磨き上げにあたっては、民間団体が積極的に取り組む。また、データ収集・戦略策定、KPI設定、PDCAサイクルの確立・情報共有等により地域の状況を把握し、北海道や関東などの他地域も含めた行政区域にとらわれない、市場の特性を踏まえたテーマやストーリー性のある商品力の強いプログラムを構築する。

## 方針3：オリンピック・パラリンピック開催等に向けた東北としての観光客の受入体制の整備

### （観光関係施設）

- 外国人旅行者がストレスなく快適に旅行を楽しむことができるよう、各種調査結果などのニーズを的確に把握し、東北ならではの観光案内サービスのネットワーク化及び統一的な情報発信、Wi-Fi・多言語表記・決済環境の整備、ハラル対応などの推進・支援、異種文化対応のための研修実施による人材育成など、東北が一体となって受入環境整備の取組みを推進する。

### （二次交通の整備・バリアフリー化）

- 二次交通の整備については、各モードを活用した有効な接続を検討するとともに、接続交通の情報提供環境を構築するなど、東北域内の周遊を促進するための取組みを推進する。
- バリアフリー化については、誰もがストレスなく旅行を楽しむことができるよう、バリアフリーツアー推進のための体制構築を図るとともに、周遊を促進するための東北6県連携したモデルコースの策定や情報発信など、関係機関等と連携しハード、ソフトの両側面から環境整備の取組みを推進する。また、バリアフリーの重要性を広く浸透させるための活動も併せて推進する。
- 上記の取組については、オリンピック・パラリンピック開催等に向けた受入体制の整備にとどまらず、開催後も見据えた長期的な視点で推進する。